



2024年9月期2Q
決算補足説明資料

©KLASS Corporation

2024年5月

6233
東証スタンダード
KLASS株式会社

■ 24/9期上期は前年同期比減収減益

■ 下期は、現段階においては大幅に好転することを想定
(通期見通しは変えず：11%増収、17%営業増益を想定)

(カッコ内は前年同期比)	2024/9期上期	2024/9期下期見通し
売上高	47.5億円 (▲1.1%)	62.4億円 (+22.9%)
営業利益	0.5億円 (▲74.6%)	3.1億円 (+236.6%)
営業利益率	1.2% (▲3.4pp)	5.0% (+3.2pp)
EBITDA*	1.7億円 (▲49.5%)	-
EBITDAマージン	3.7% (▲3.6pp)	-

2024/9期 上期決算概要

極東産機は、



24/9期上期は前年同期比減収減益。主力のプロフェッショナルセグメントで苦戦を強いられたうえ、コンシューマセグメントも伸び悩み。これら2セグメントは営業赤字を計上

一方、インダストリー、ニュー・インダストリーは順調な進捗。国内景気拡大に伴う設備投資需要回復が追い風に。上記2セグメントとは対照的な推移

通期想定に対しては、売上で43%、営業利益で15%の進捗率。上期はスロースタート

(百万円)	2023/9期		2024/9期			通期想定 進捗率
	上期	下期	上期	対前年同期比		
				増減額	増減率	
売上高	4,808	5,079	4,757	▲50	▲1.1%	43.3%
プロフェッショナル	3,545	3,596	3,363	▲182	▲5.2%	44.5%
コンシューマ	380	353	364	▲15	▲4.1%	36.5%
インダストリー	698	763	731	+32	+4.7%	40.6%
ニュー・インダストリー	183	365	298	+114	+62.5%	45.9%
営業利益	220	93	56	▲164	▲74.6%	15.1%
プロフェッショナル	157	▲24	▲65	▲222	▲141.3%	—
コンシューマ	▲1	▲10	▲2	▲0	▲45.0%	—
インダストリー	80	94	97	+17	+21.3%	54.3%
ニュー・インダストリー	▲15	33	25	+41	—	513.6%
EBITDA*	351	215	177	▲174	▲49.5%	
経常利益	189	94	41	▲148	▲78.2%	11.3%
親会社株主帰属 当期純利益	127	▲25	11	▲116	▲91.0%	4.6%
営業利益率	4.6%	1.8%	1.2%	▲3.4pp		—
EBITDAマージン	7.3%	4.3%	3.7%	▲3.6pp		
経常利益率	3.9%	1.8%	0.9%	▲3.1pp		—

*EBITDA = 営業利益 + 償却費

■ 2Q発生ベースは前年同期比減収減益

■ プロフェッショナルとコンシューマの2セグメントがそれぞれ8%程度の売上減となり、利益的にも苦戦。インダストリー、ニュー・インダストリーの進捗は順調なるも、上記マイナス要因を吸収できず

■ ただし、1Q比では増収増益。プロフェッショナルセグメントも営業黒字を回復し、全社ベースでも赤字を解消

(百万円)	2023/9期				2024/9期		前年同期比	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	増減額	増減率
売上高	2,164	2,643	2,266	2,813	2,201	2,556	▲87	▲3.3%
プロフェッショナル	1,588	1,957	1,672	1,923	1,573	1,789	▲167	▲8.6%
コンシューマ	198	181	173	180	196	168	▲13	▲7.4%
インダストリー	300	398	295	467	310	420	+22	+5.6%
ニュー・インダストリー	76	106	124	241	120	177	+71	+66.5%
営業利益	25	195	▲38	132	▲33	89	▲106	▲54.3%
プロフェッショナル	24	133	▲36	11	▲68	3	▲129	▲97.3%
コンシューマ	▲2	0	▲4	▲6	▲1	▲0	▲1	-
インダストリー	27	53	2	92	31	66	+13	+24.9%
ニュー・インダストリー	▲23	8	▲0	34	5	19	+11	+145.2%
経常利益	20	169	▲29	123	▲37	79	▲90	▲53.3%
親会社株主帰属 当期純利益	1	126	▲21	▲4	▲35	47	▲79	▲62.7%
営業利益率	1.2%	7.4%	▲1.7%	4.7%	▲1.5%	3.5%	▲3.9pp	
経常利益率	0.9%	6.4%	▲1.3%	4.4%	▲1.7%	3.1%	▲3.3pp	

■ 軟調展開。前期下期からは営業赤字が継続

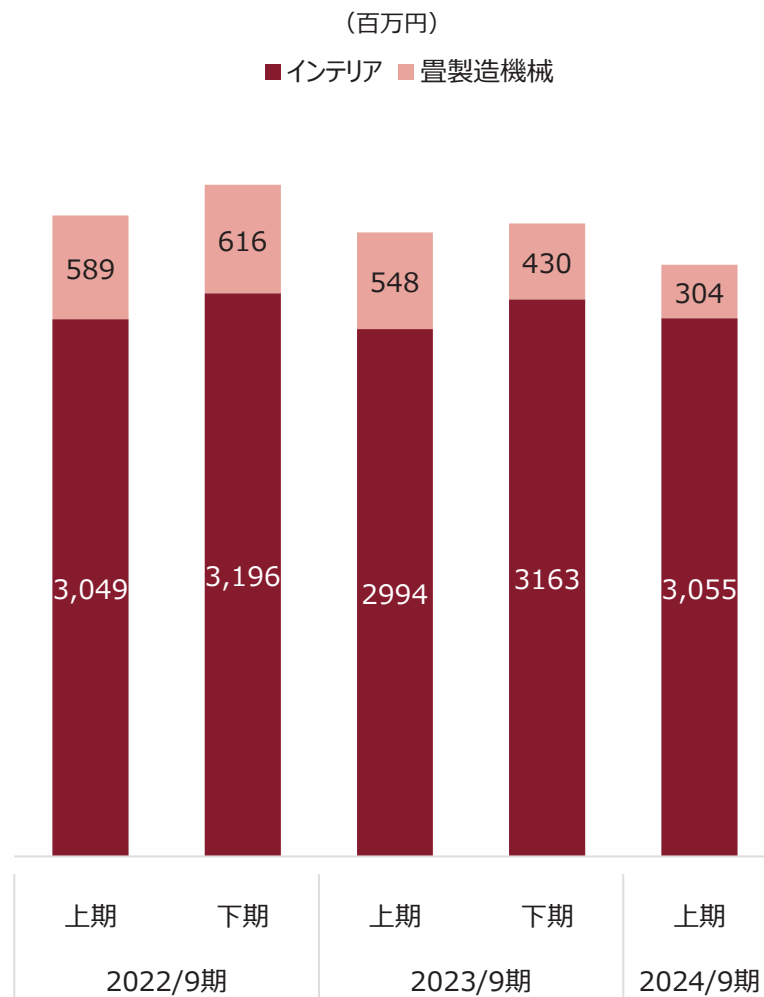
■ インテリア：伸び悩み

- ↑ リアル展示会復活に加え、新型自動壁紙糊付機を発売
- ↓ 住宅建設関連市場は需要弱含みで推移
- ↓ コスト面では、商号変更費用、新製品金型の償却費、原材料や商品仕入価格が上昇

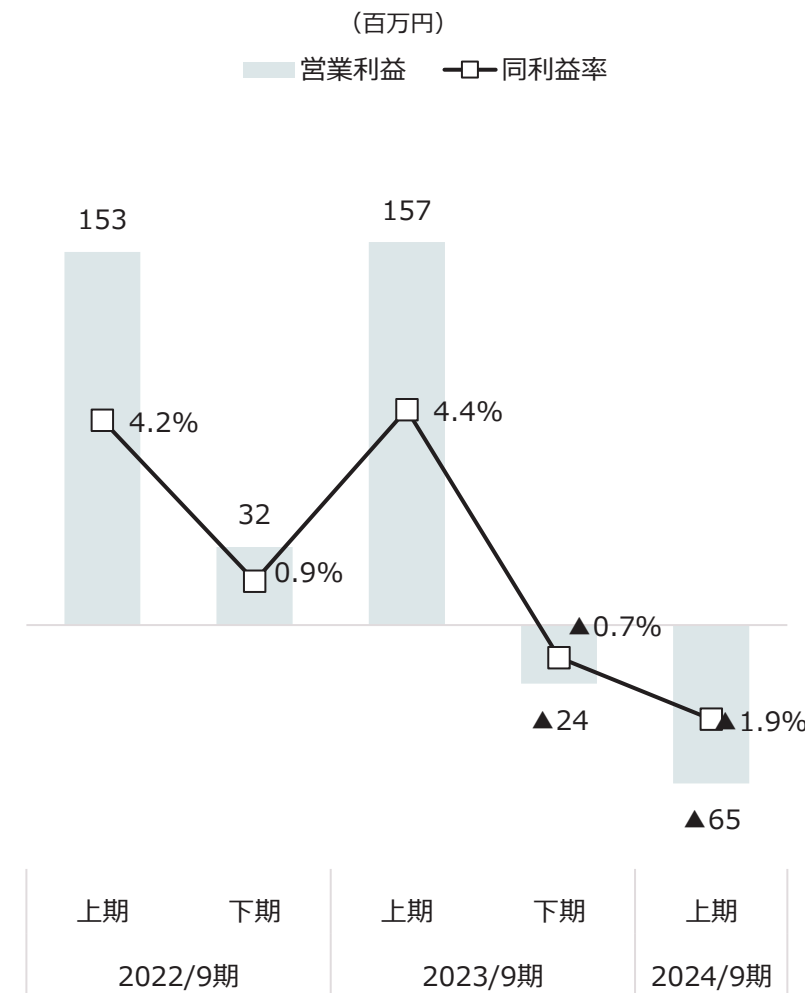
■ 畳：厳しい展開

- ↓ 補助金採択件数減により、畳製造装置購買意欲が低下
- ↓ 積極的な営業展開も即効性不足
- ↓ 補助金制度は3年が経過し、その市場開拓効果には一巡感が台頭

売上高推移



営業利益推移



営業赤字継続するも黒字浮上まであと一歩

■ コンシューマ

- 🏠 フィットネスクラブ向け防音・防振床材が好調維持
- 🏠 棺用畳の需要も回復傾向。住宅向け畳替え需要は回復途上

■ ソーラー・エネルギー

- 📉 中規模以上の案件開拓低調

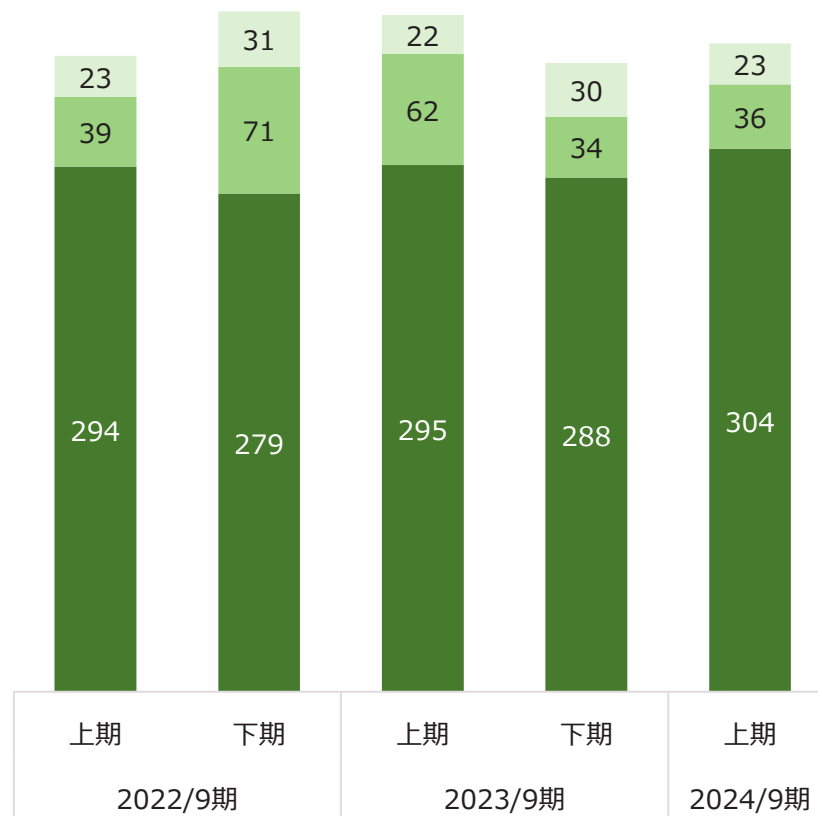
■ 売電

- 🏠 メガソーラー発電所「三日月サンシャインパーク」をはじめ順調に稼働

売上高推移

(百万円)

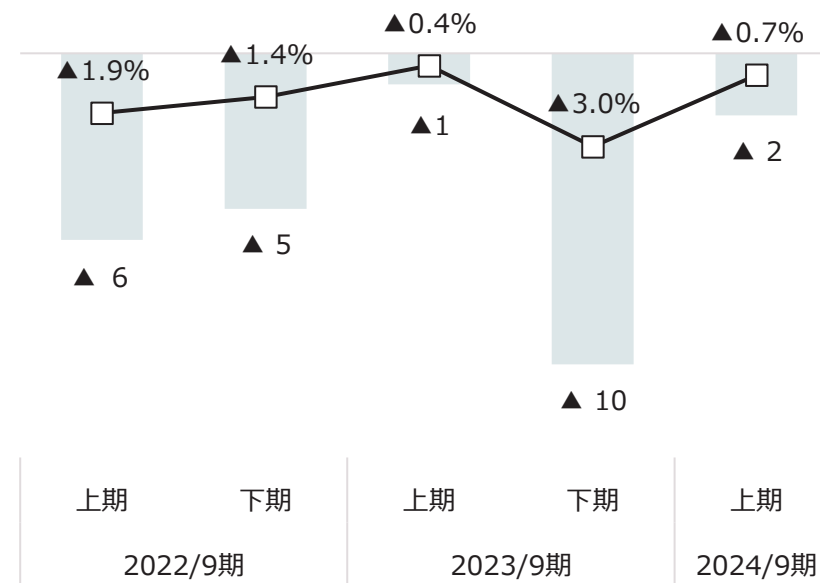
■ コンシューマ ■ ソーラー・エネルギー ■ 売電



営業利益推移

(百万円)

■ 営業利益 □ 同利益率



順調な進捗。利益率の上昇基調も鮮明

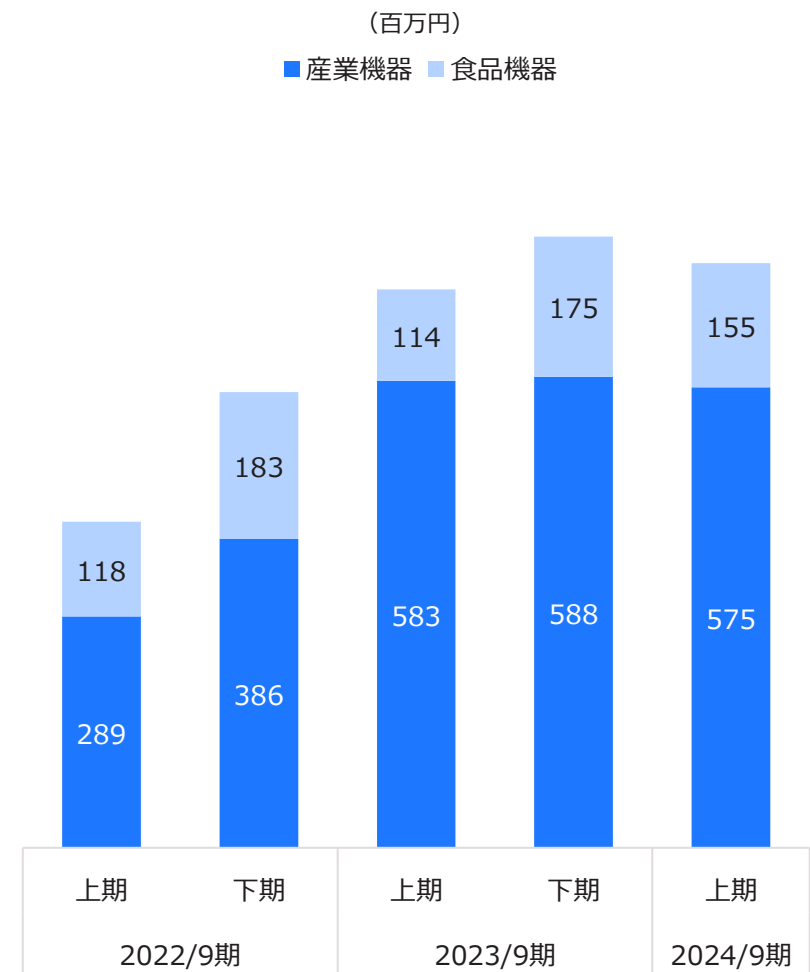
産業機器

- ↑ 二次電池製造装置でリピート受注が拡大
- ↑ 二次電池に加えて、環境関連設備等の各種生産設備案件の引き合いと受注が、新規・リピートを含めて活発
- ☆ 受注割合は新規10%、リピート90%。2Q末時点でおよそ1年分の受注残を積上げ

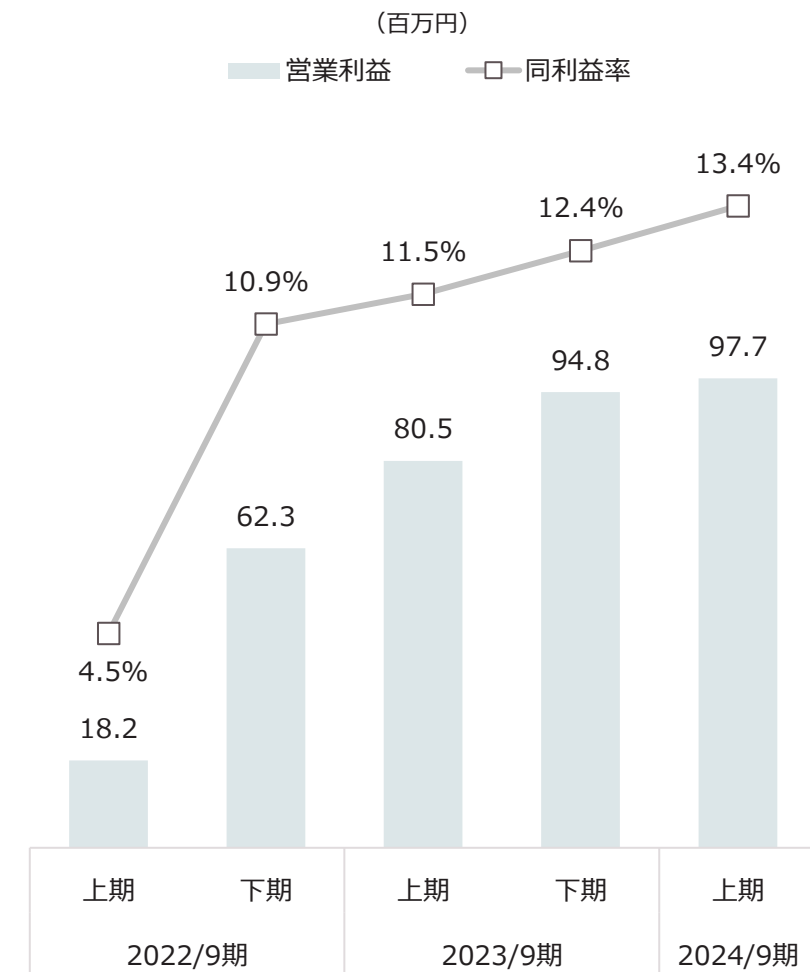
食品機器

- ↑ 大手飲食チェーン向けマルチディスプレイの引き合いが回復

売上高推移



営業利益推移



黒字基調。消耗品を軸に売上水準は大きく上昇

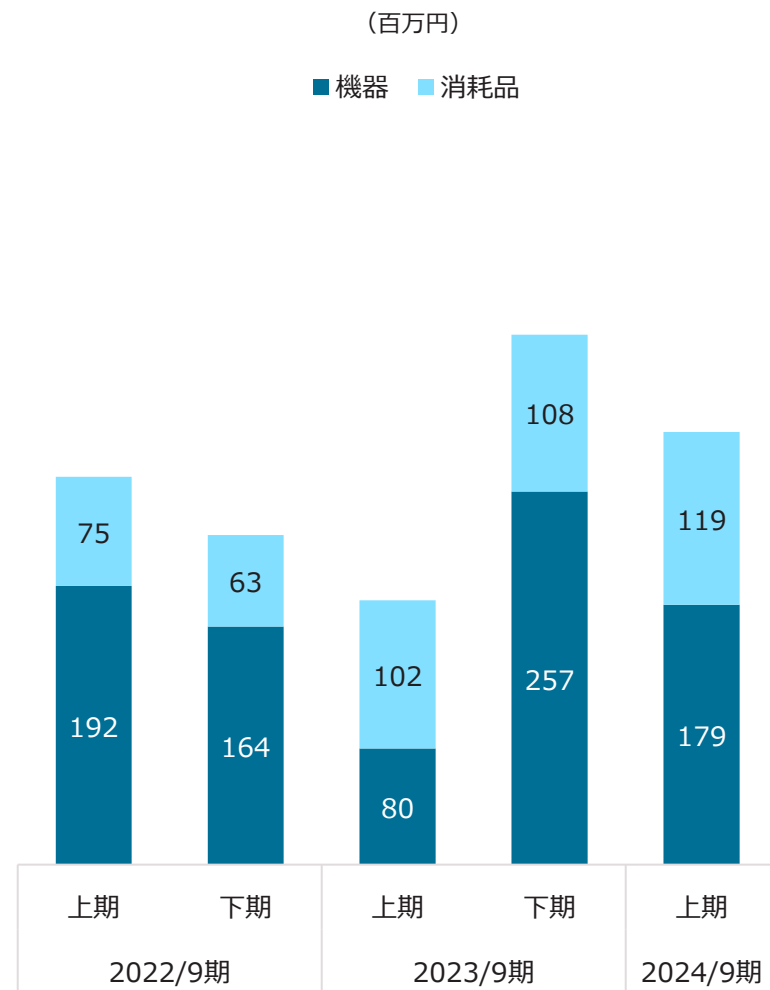
機器

- 🏠 自動車関連の大型機器受注と住宅設備関連機器が好調に推移
- ☆ 新たな工法の自動化設備も開発中

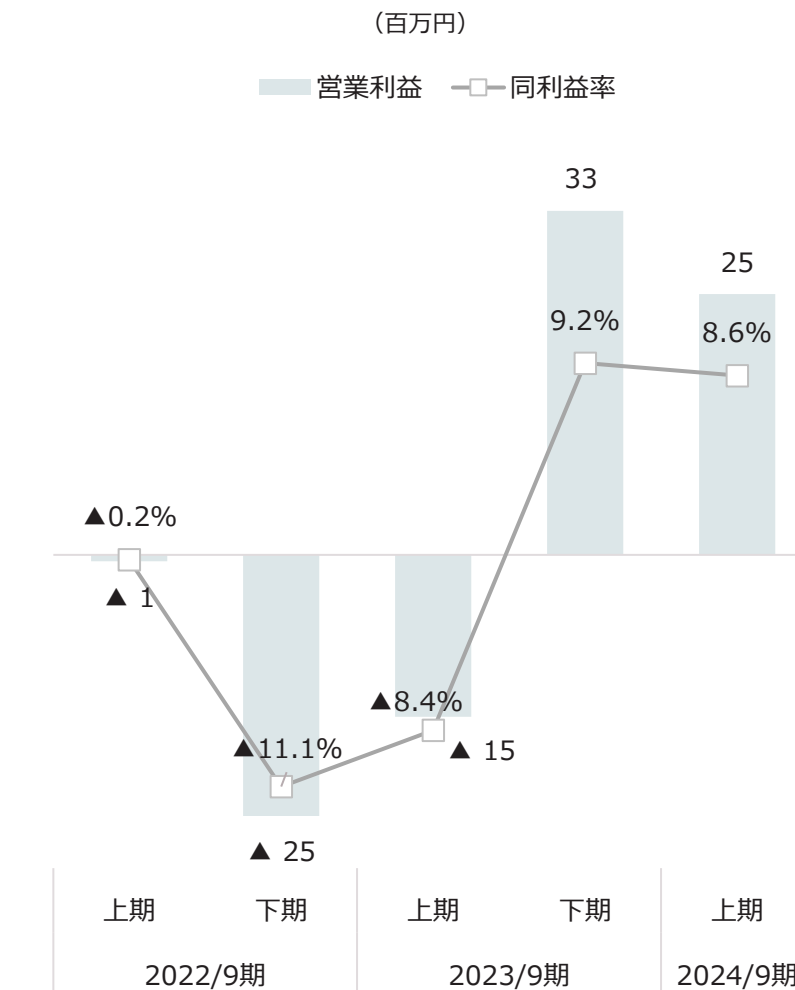
消耗品

- 🏠 機器の先行指標としてのアンテナでもあり、今回も機器需要に先駆けて消耗品が先行伸長
- ☆ 消耗品が好調なのは既存の設備が順調に稼働している証拠であり、新たな設備投資需要の先行指標になりうる

売上高推移



営業利益推移

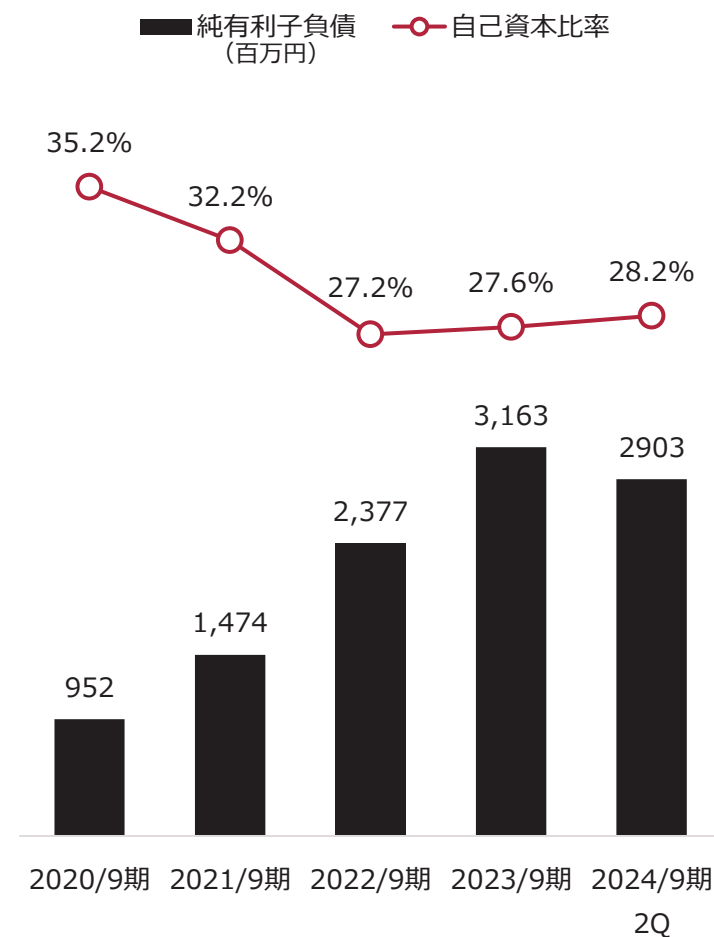


■ 総資産は若干減少。主として債権債務の解消進展がその要因

■ 純有利子負債残高は4期ぶりに減少。自己資本比率の改善も進み、28.2%まで上昇

(百万円)	22/9期	23/9期	24/9期2Q	前期末比 増減
流動資産	5,943	6,119	5,826	▲ 292
現預金	1,497	1,195	1,376	+181
売上債権	2,924	3,307	2,815	▲ 494
棚卸資産	1,341	1,454	1,522	+67
固定資産	4,487	4,456	4,406	▲ 50
負債	7,589	7,660	7,349	▲ 311
買入債務	2,262	1,952	1,991	+34
有利子負債	3,874	4,359	4,279	▲ 79
純資産	2,841	2,915	2,883	▲ 31
総資産	10,430	10,575	10,233	▲ 342

純有利子負債と自己資本比率の推移



■ 2024/9期上期、FCFは上場
来最高となる大幅黒字に回復

■ 大型設備投資が一巡したうえ、
売上債権の回収進捗による運
転資本の充実が貢献

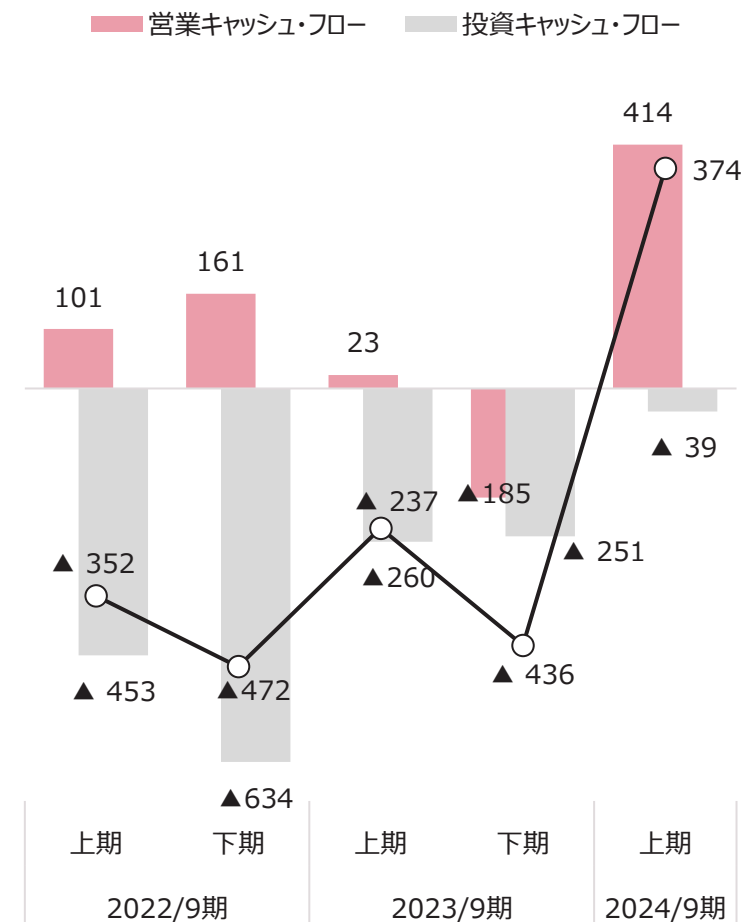
■ FCFの黒字計上により、一部
借入金を返済

(百万円)	2022/9期		2023/9期		2024/9期
	上期	下期	上期	下期	上期
営業CF	101	161	23	▲185	414
運転資本増減	▲64	▲42	▲329	▲572	527
投資CF	▲453	▲634	▲260	▲251	▲39
固定資産取得	▲486	▲596	▲307	▲192	▲86
FCF	▲352	▲472	▲237	▲436	374
財務CF	269	488	326	63	▲135
借入金変動	333	492	405	▲66	▲79
配当金支払	▲53	-	▲53	-	▲53

* FCF=営業CF+投資CF で算出

CFの推移

(百万円)

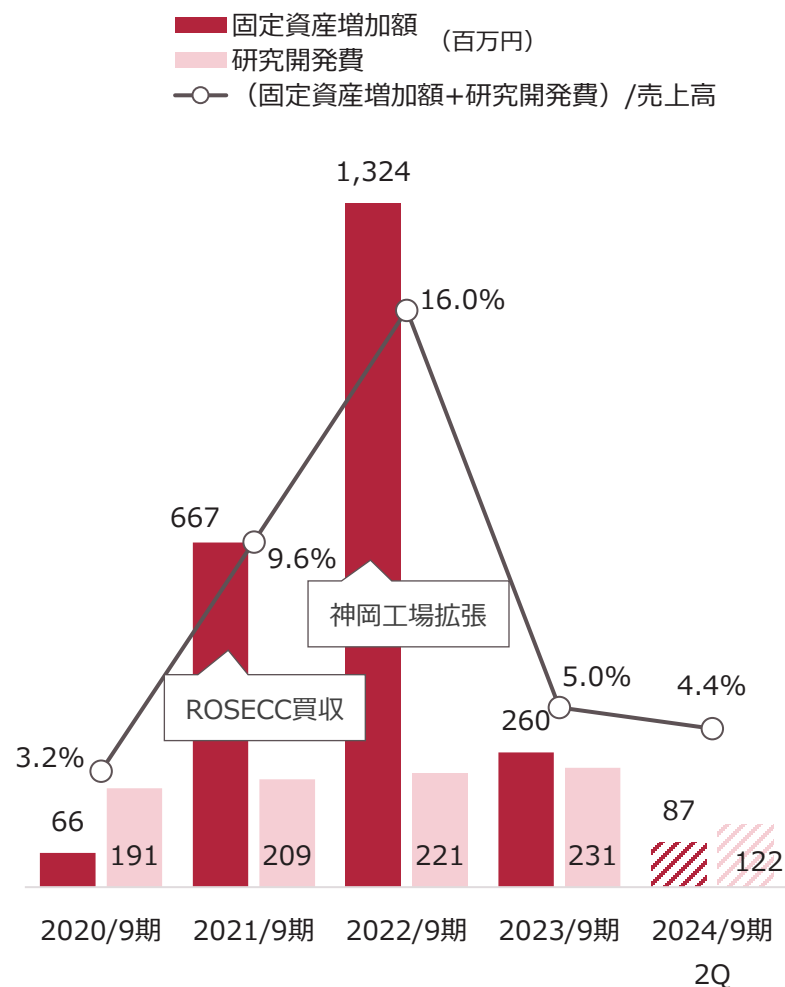


■ 技術力での差別化は当社の生命線。研究開発費は漸増トレンドを継続

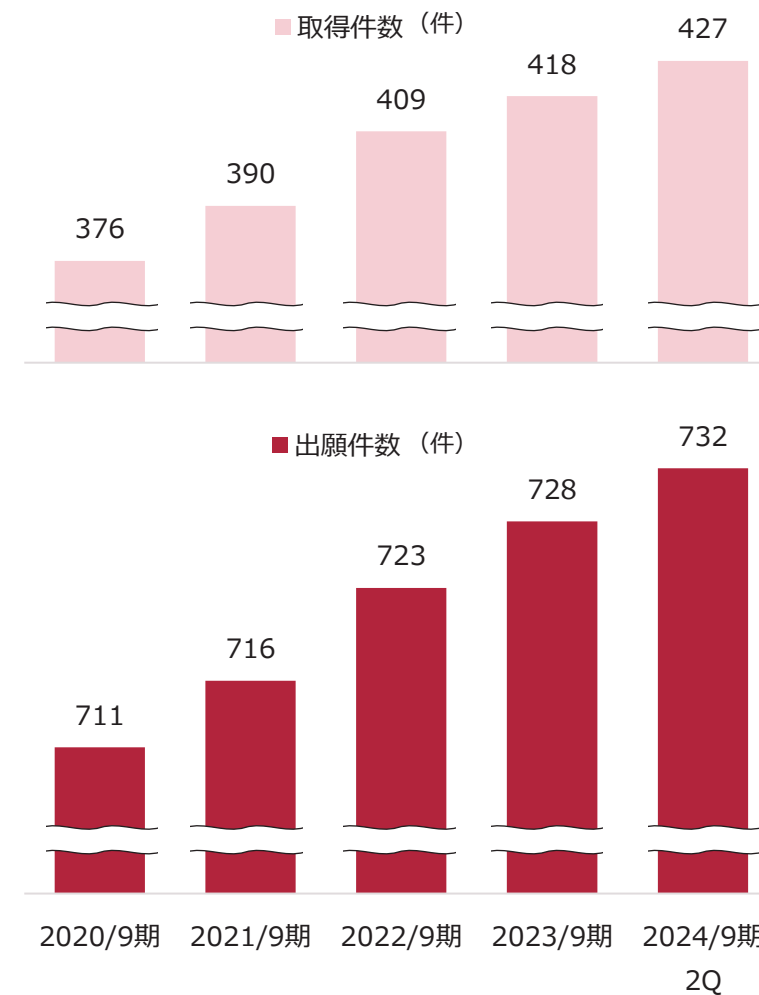
■ 設備投資では、大規模案件がほぼ一巡。今後もこれらの投資の成果を確認するフェーズに

■ 特許取得件数も順調に拡大。その先行指標となる特許出願数も高水準を維持

投資&研究開発費の推移



特許取得件数 (累計) の推移



2024/9期 決算見通し

極東産機は、



■ 通期見通しは現状据置き。前年比11%増収、18%営業増益を想定

■ 下期だけを取り出して見ると、対上期比で23%増収、営業利益は3.7倍を想定。下期は設備関連需要の底上げを前提に、回復基調がより顕著になると予想

■ セグメント別では、上期に苦戦したプロフェッショナル、コンシューマの両セグメントが販売好調な商品の上乗せ、商号変更等の赤字要因の緩和により回復を見込む

■ 一方、インダストリー、ニュー・インダストリーは受注好調なものの、保守的なスタンスを採る

(百万円)	2023/9期		2024/9期				
	上期	下期	上期	下期見通し	前期比		通期見通し
					増減額	増減率	
売上高	4,808	5,079	4,757	6,242	+1,162	+22.9%	11,000
プロフェッショナル	3,545	3,596	3,363	4,186	+590	+16.4%	7,550
コンシューマ	380	353	364	635	+281	+79.6%	1,000
インダストリー	698	763	731	1,068	+305	+40.0%	1,800
ニュー・インダストリー	183	365	298	351	▲14	▲3.9%	650
営業利益	220	93	56	313	+220	3.4倍	370
プロフェッショナル	157	▲24	▲65	200	+224	-	135
コンシューマ	▲1	▲10	▲2	52	+63	-	50
インダストリー	80	94	97	82	▲12	▲13.4%	180
ニュー・インダストリー	▲15	33	25	▲20	▲54	-	5
経常利益	189	94	41	323	+229	3.4倍	365
親会社株主帰属 当期純利益	127	▲25	11	238	+264	▲9.3倍	250
営業利益率	4.6%	1.8%	1.2%	5.0%	+3.2pp		3.4%
経常利益率	3.9%	1.9%	0.9%	5.2%	+3.3pp		3.3%

プロフェッショナル

下期は対上期比で増収増益へ

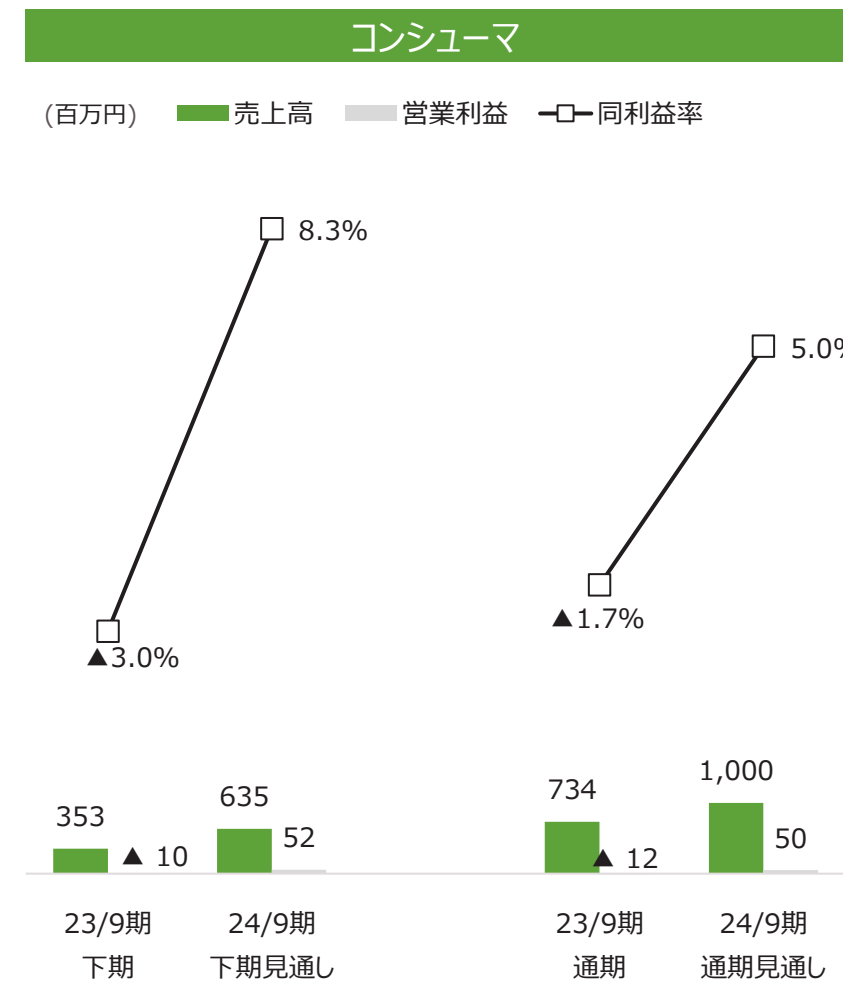
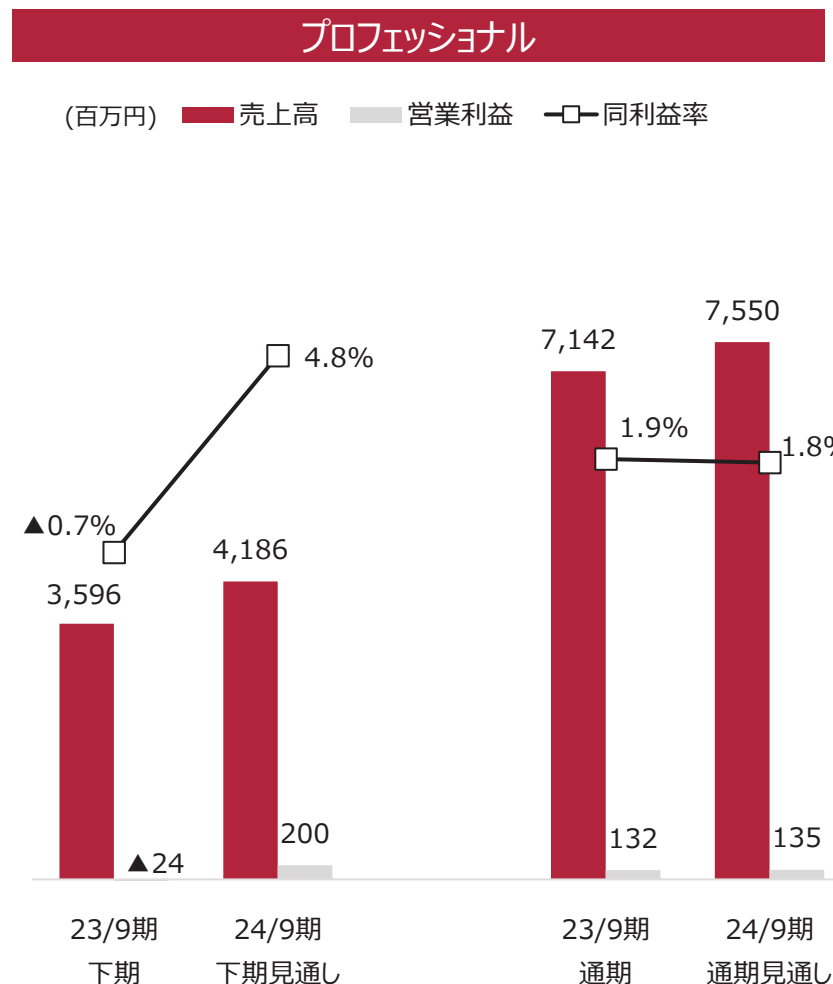
リモート営業に加え、展示会復活で売上機会拡大を見込む

販売ルート拡大と同時に、新たな市場開拓も急ぐ

コンシューマ

下期は営業黒字化を実現し、通期でも黒字確保を目指す

スポーツジム向け床材の好調持続に加え、防災関連等の増販やソーラー発電システムの大規模工事獲得を見込む



■ インダストリー

下期は上期比で増収減益

新設工場稼働で引合増加。高水準の受注残もあり、売上高は過去最高更新へ

一方、利益面では新工場償却負担増もあり、利益率は保守的に想定

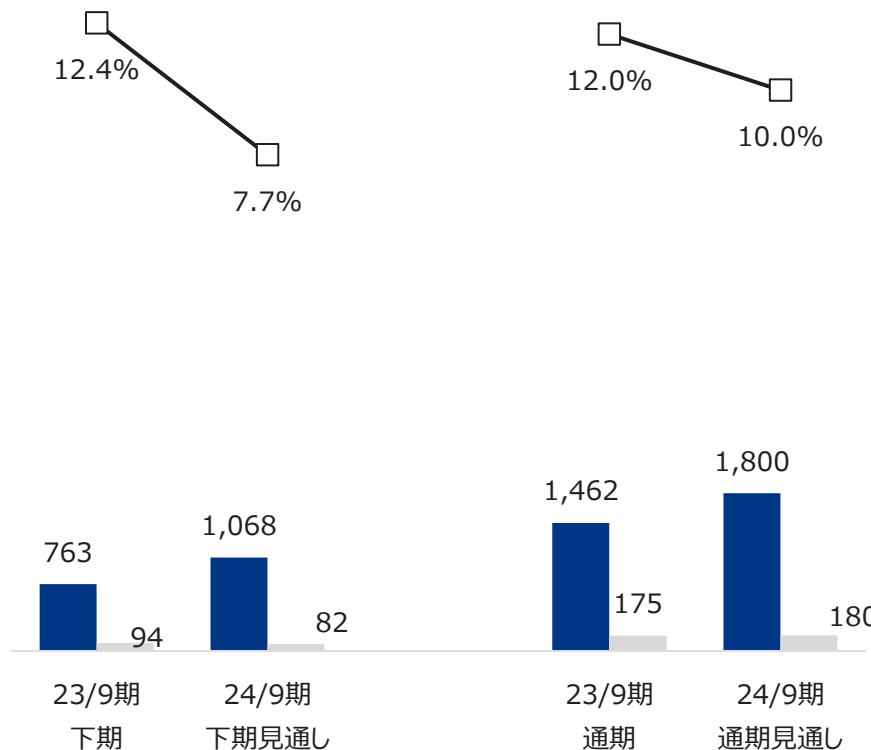
■ ニュー・インダストリー

下期は上期比で減収減益

自動車関連需要の堅調に加え、新領域展開も追求。ただし、新領域展開に伴うコスト上昇を見込み、利益率低下のリスクを織り込み

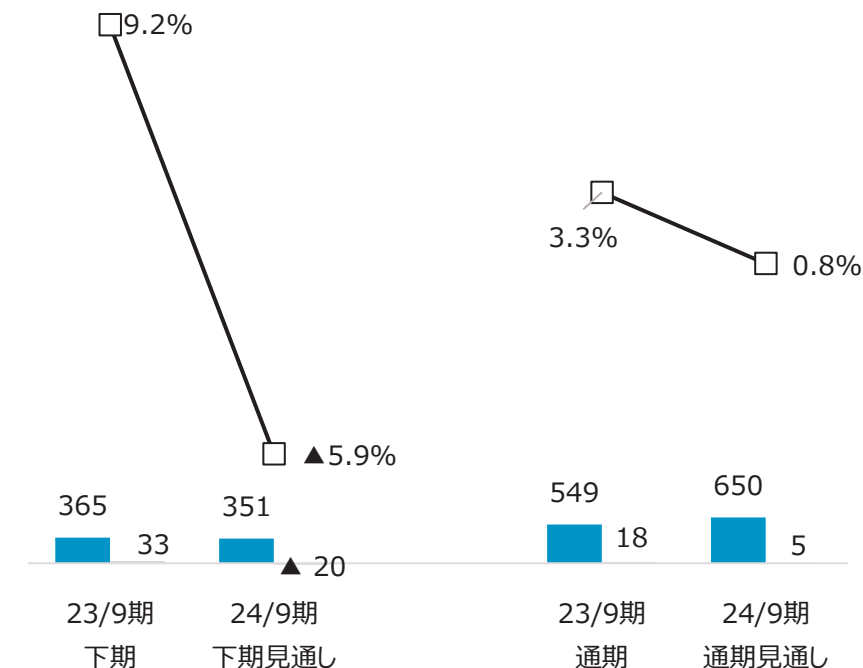
インダストリー

(百万円) ■ 売上高 ■ 営業利益 □ 同利益率



ニュー・インダストリー

(百万円) ■ 売上高 ■ 営業利益 □ 同利益率

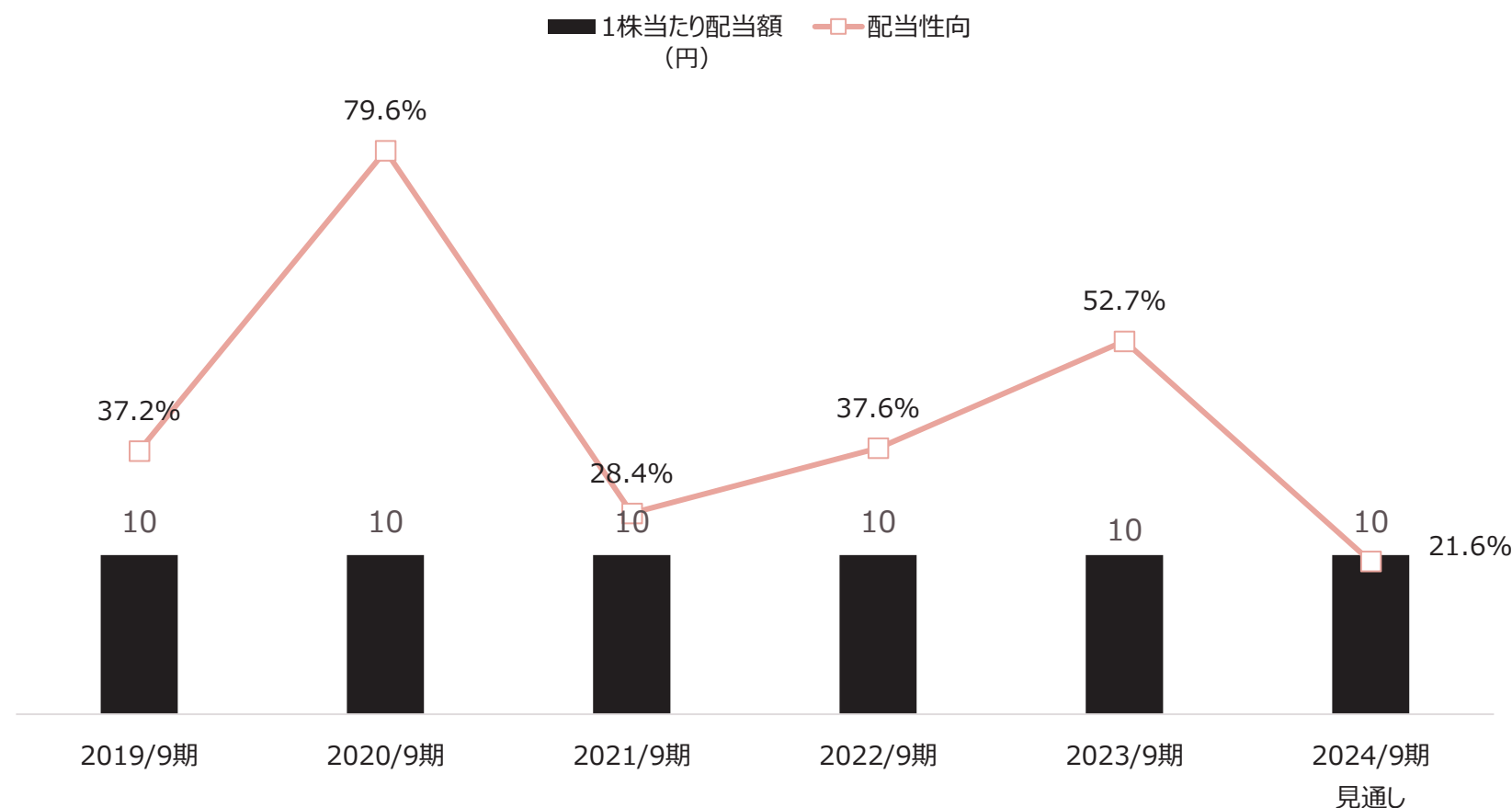


株主還元方針

安定配当の維持を基本としつつ
今後の事業展開等を勘案して配当を実施

■ 当社株主還元方針に基づき、24/9期は10円配当継続を計画。現時点の想定配当性向は21.6%

■ 従来計画通り、中間配は実施せず。四半期毎の業績変動の比較的大きな当社にとっては、年間の利益動向を見据えての配当判断が重要とのスタンス

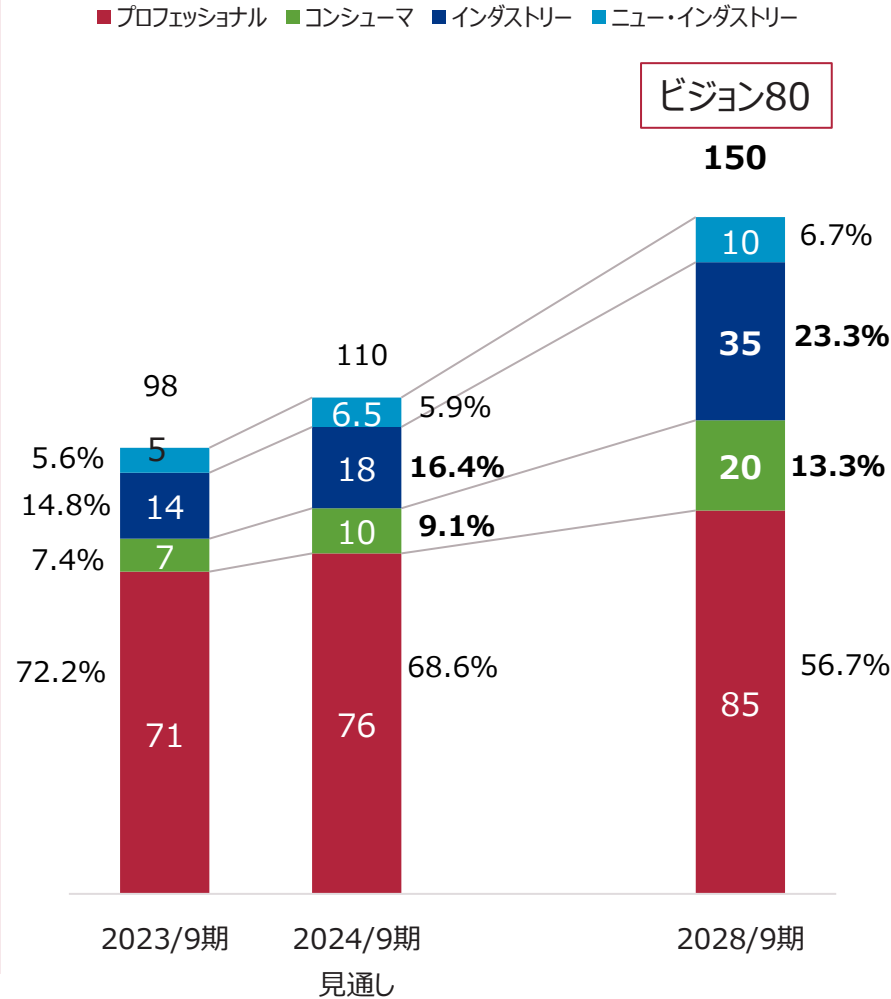


■ 売上高構成比はビジョン80に向けて順調に調整中

■ 一方、営業利益目標と現状との乖離はまだ大きい。収益力の引上げを急ぎ、ビジョン80達成への確度引上げを図る

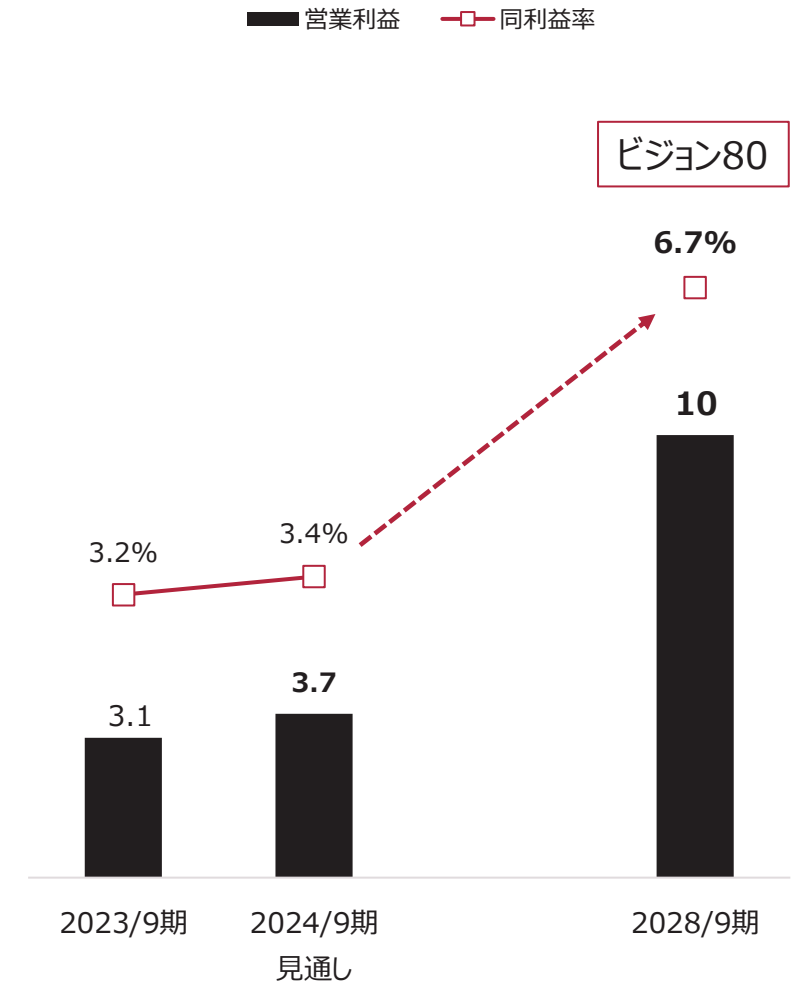
セグメント別売上高目標

(億円)



営業利益目標

(億円)



資本コストと株価を意識した経営

極東産機は、

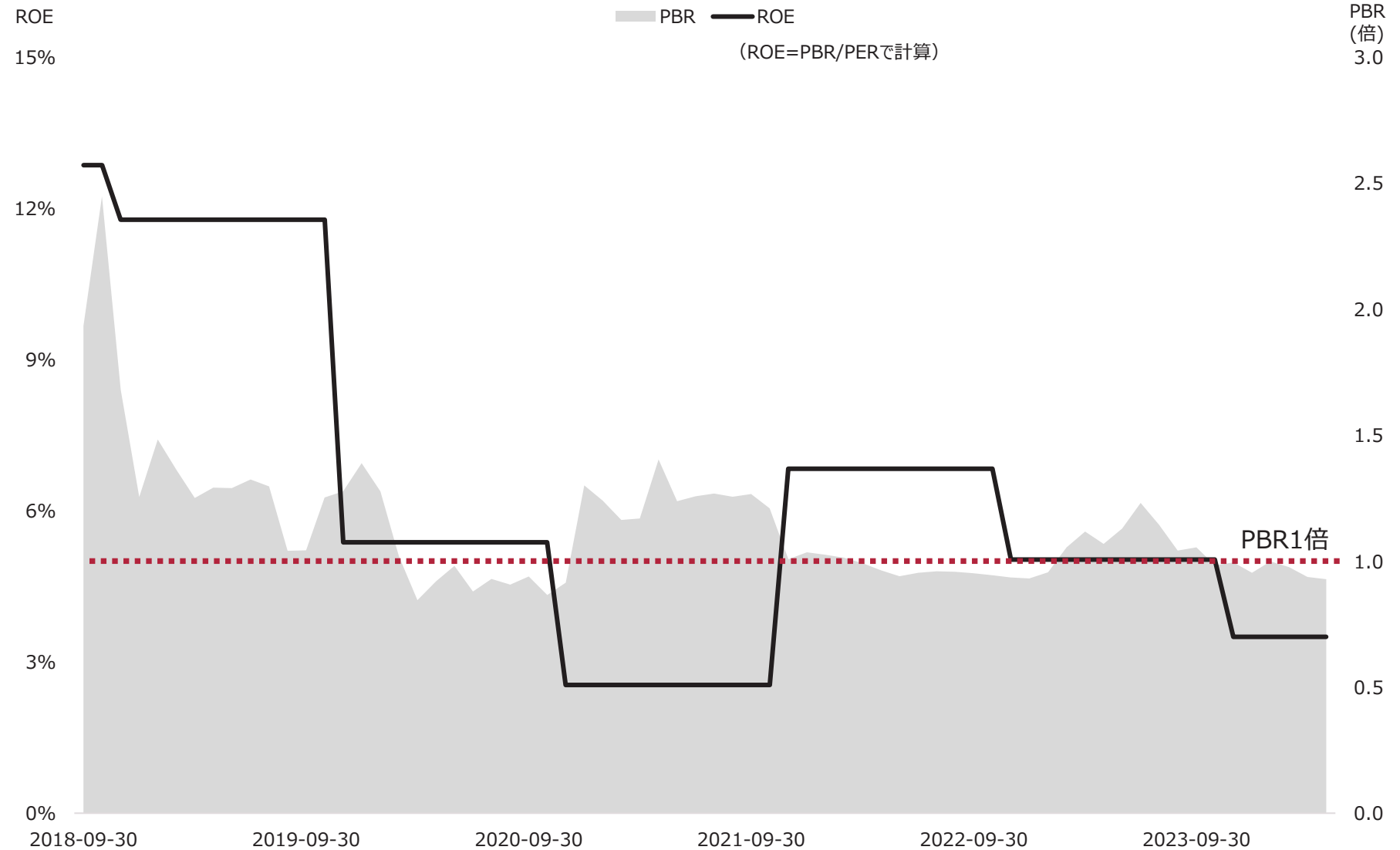


現状認識

PBRは1倍前後の水準が継続
 一方、ROEは直近5期（含今期）で8%以下の水準で推移
 PBR1倍超の定着には、ROEの水準引上げは当然ながら、株式市場にそれへの期待の浸透が不可欠と認識

今後の取組み

「ビジョン80」の実現に向けて、収益性や資本効率の向上を推進。早期のROE水準引上げ実現を目指す
 同時に、株式市場で期待が高まるようIRや経営戦略に関して市場との対話を進める



Appendix

極東産機は、



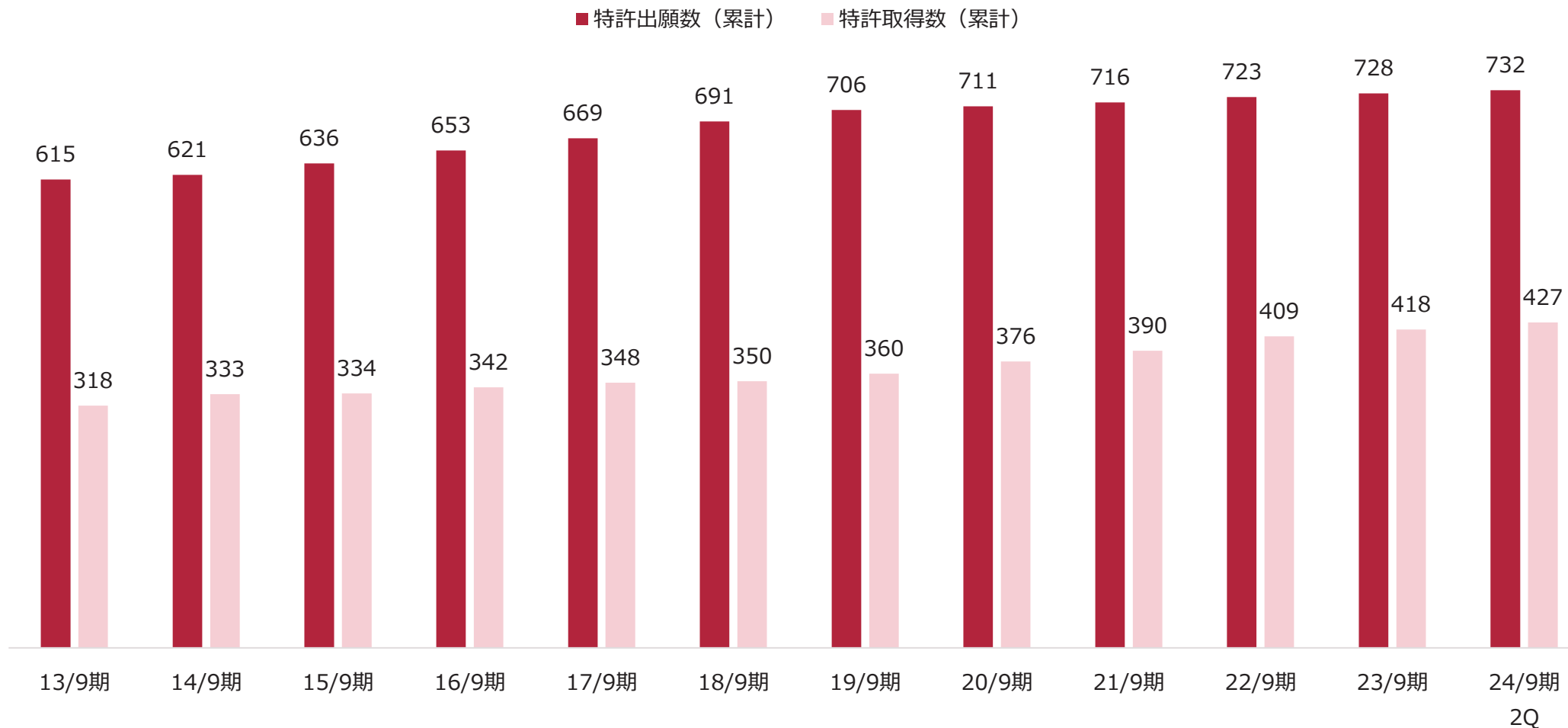
■ 畳製造装置や自動壁紙糊付機等の住宅に関わる製品や、地元産業との異業種交流から始まった食品機器の開発を通じ、長年培ってきた7つのコア技術を活用した産業機器の開発・製造やFactory Automation化の提案で、ものづくり現場に貢献



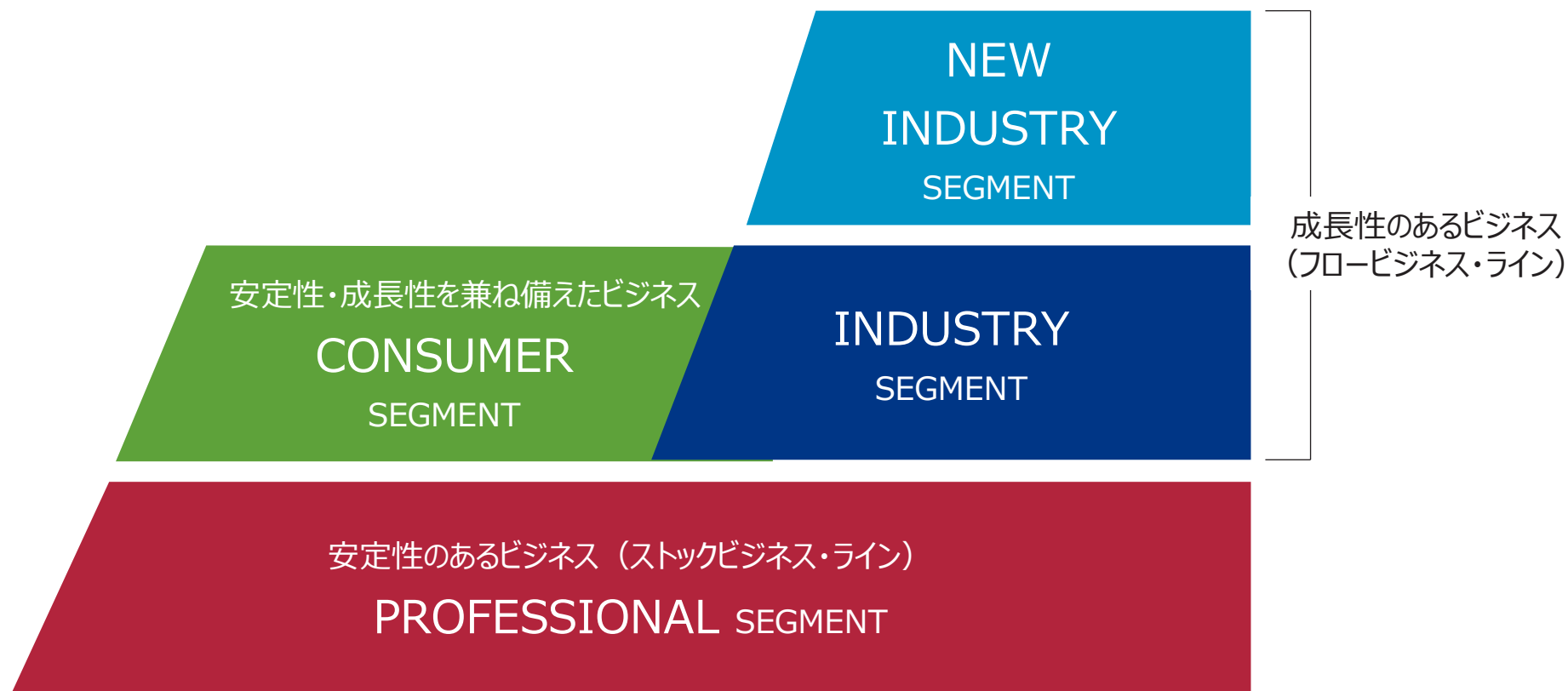
	当社のテリトリー 創業来この分野への挑戦を継続	通常の機械メーカーのテリトリー
対象物	形状が不均一 破れやすくシワになり易いモノ 機械化の困難なモノ	規格製品 変形せず掴み易いモノ 機械化の容易なモノ
Point	<ul style="list-style-type: none"> 職人技術の世界への参入 全ての要素技術が同時に満たされなければ職人と対抗不可 その結果、他社では実現困難な機能の提供が可能に 	<ul style="list-style-type: none"> 多数の企業が参入可能 要素技術は分業化傾向



開発を通じて蓄積した技術については積極的に特許の取得を推進



- 当社はこれまで、創業以来の「プロフェッショナルセグメント」が、技術力と商品力を駆使して新商品を開発し、新市場を作り続けてきた
- 今後とも、「安定性」のある「プロフェッショナル」と「成長性」のあるその他3セグメントが、それぞれの強みの相乗効果を発揮してさらなる発展を遂げていく



		2019/9期	2020/9期	2021/9期	2022/9期	2023/9期	2024/9期2Q
売上高	(千円)	9,159,561	8,006,367	9,169,425	9,660,071	9,888,009	4,757,839
経常利益	(千円)	212,791	81,586	273,578	194,796	283,732	41,367
当期純利益	(千円)	144,681	67,685	189,534	143,422	102,307	11,510
資本金	(千円)	631,112	631,112	631,112	631,112	631,112	631,112
発行済株式総数	(株)	5,391,000	5,391,000	5,391,000	5,391,000	5,391,000	5,391,000
純資産額	(千円)	2,696,681	2,673,643	2,780,993	2,841,288	2,915,188	2,883,581
総資産額	(千円)	8,023,664	7,591,862	8,625,240	10,430,851	10,575,752	10,233,115
1株当たり純資産額	(円)	500.22	495.95	515.86	527.05	540.76	534.90
1株当たり配当額	(円)	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	–
1株当たり当期純利益金額	(円)	26.90	12.56	35.16	26.60	18.98	2.14
自己資本比率	(%)	33.6	35.2	32.2	27.2	27.6	28.2
自己資本利益率	(%)	5.5	2.5	6.9	5.1	3.6	–
配当性向	(%)	37.2	79.6	28.4	37.6	52.7	–
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	▲64,289	124,059	460,771	263,057	▲162,264	414,023
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	▲102,383	▲32,338	▲794,812	▲1,088,497	▲512,180	▲39,310
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	2,356	▲70,960	442,782	757,699	390,093	▲135,489
現金及び現金同等物の期末残高	(千円)	1,025,591	1,046,348	1,155,091	1,087,351	803,000	1,042,223
従業員数	(人)	275	281	292	295	298	–
(外、平均臨時雇用者数)	(人)	(24)	(23)	(25)	(29)	(29)	(–)

< 見通しに関する注意事項 >

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、
将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先
管理本部総務部 IR担当
0791-62-1771 (代表)
ir-info@klass-corp.co.jp